

## 長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	41	—	事業名	高齢者日常生活補助事業	担当部課	福祉部長寿課
------	----	---	-----	-------------	------	--------

総合計画	基本方針	3	人がいきいきとつながるまち	会計	1	一般会計
	分野別項目	8	高齢者の安心な暮らしと生きがいを支える	款	3	民生費
	施策の進め方	—		項	1	社会福祉費
まちづくり 行程表	フラッグ	2	「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～	目	2	老人福祉費
	政策分類	5	障がい者でも要介護でも認知症でも大丈夫	大事業	3	高齢者日常生活補助事業
その他（関係法令、要綱等）		高齢者日常生活用具給付事業実施要綱、紙おむつ助成金支給要綱、家族介護慰労金支給事業実施要綱、高齢者等訪問理美容サービス事業実施要綱、高齢者住宅改修事業補助金交付要綱				
事業開始の背景、経緯等		高齢者の健康的な生活を支援し、日常生活の安全と利便の向上を図ることで、その福祉の増進に資することを目的とする。				

事業内容	(どのような事業なのか) 加齢や認知症の進行等により、心身機能が低下した高齢者等に対して、生活環境の改善のための支援を行うことで、健康的な日常生活の維持を図る。					
事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市内在住の満65歳以上の市民等					
事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者等が、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるようにする。					
事業を 構成する 事務事業	① 日常生活用具給付事業	休・廃止	④ 訪問理美容サービス事業	改善・見直し		
	② 紙おむつ助成事業	改善・見直し	⑤ 高齢者住宅改修事業	拡充		
	③ 家族介護慰労金支給事業	改善・見直し	⑥			

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費(A)	千円	予算			7,164	8,980	9,391
		決算			9,353	10,296	
人件費(B)	千円	決算			716	3,055	
総コスト(A)+(B)	千円	決算			10,069	13,351	

成果指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
A 事業利用者数	人	目標	181	186	153	160	166
		実績	147	162	210	183	
B 補助金支給件数	件	目標	30	6	7	8	10
		実績	7	5	10	15	
C		目標					
		実績					

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 長久手市第7次高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画により目標値を設定。

B 長久手市第7次高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画により目標値を設定。

C

他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町においても同様のサービスが提供されている。
-----------------------	---

目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 概ね目標値を上回っており、着実に高齢者等の生活の支援を行えている。
事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 今後の急速な高齢化に伴い、現行制度では近い将来に財源不足になることが予測されるため、介護予防・日常生活支援総合事業(新しい総合事業)の導入に伴い事業の見直しが必要と考えられる。

今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 支援を必要としている人に確実な支援ができるよう、制度の周知及び利用方法の改善を進める必要がある。
中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 次期計画期間を用途に対象要件の見直し、補助事業の統廃合により、交付申請手続きの簡易化を図り、利用者の利便性を図る。

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

					事業名	高齢者日常生活補助事業								
番号	①	事務事業名	日常生活用具給付事業		款	3	項	1	目	2	大事業	3	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成6年度		終了（予定）年度	平成28年度								

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	<p>【対象者】心身機能の低下に伴い防火等の配慮が必要な次のいずれの方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 満65歳以上のひとり暮らしの方</li> <li>・ 満75歳以上の方のみの世帯</li> </ul> <p>【内容】電磁調理器の購入費を1回に限り給付する。 (基準額41,000円)</p>
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	高齢者等が、安心して日常生活を送ることができるようにする。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			41	41	—
		決算			41	0	—

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業利用者数	人	目標	2	1	1	1	—
		実績	0	2	1	0	—
		目標					
		実績					

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

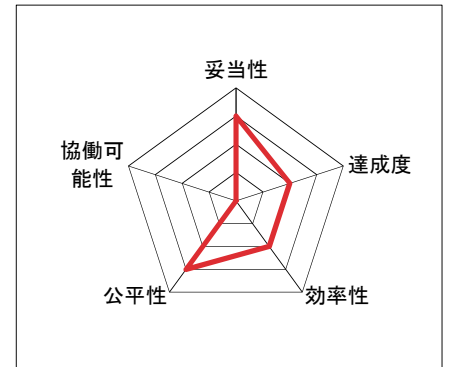
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
ビルトイン式のコンロが主流となり、現在の基準額では、電磁調理器への改修を行った場合、利用者の負担が大きくなっている。

## 5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
高齢者等の経済的負担を軽減するため、今後も事業を継続する。
(何をどのような状態に改善したのか)
利用実績が極めて少ないため、対象となる電磁調理器への変更を「高齢者住宅改修事業」の対象とすることで、利用者の申請しやすい制度とし、本事業は廃止した。

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	2
効率性	2
公平性	3
協働可能性	—



### 【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
当初の電磁調理器の導入時期における購入の推進に一定の効果があった。

### 【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
給付対象が限定的であり、給付額に対する自己負担が大きいため、利用者が極めて少なくなっている。

## 7. 今後の方向性

**休・廃止**

### 【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
高齢者住宅改修事業の対象事業として、対象者への利用促進を図る。

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者日常生活補助事業									
番号	②	事務事業名	紙おむつ助成事業	款	3	項	1	目	2	大事業	3	中事業	2
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成12年度	終了（予定）年度	—								

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	<p>（誰、何に対し、何をどのように実施しているのか）</p> <p>【対象者】常時、紙おむつが必要な次のいずれにも該当する方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要介護2以上の方</li> <li>・介護保険施設に入所していない方</li> <li>・本人の所得が200万円未満の方</li> </ul> <p>【内容】紙おむつ、尿取りパット、使い捨て手袋等の購入金額の9割、年度上限5万円までを助成する。</p>
意図	<p>（対象をどのような状態にしたいか）</p> <p>介護者の経済的な負担が軽減され、高齢者等も衛生的な生活を送ることができる。</p>

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			4,635	5,551	6,080
		決算			6,370	5,856	

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業利用者数	人	目標	155	160	125	130	135
		実績	128	138	183	162	
		目標					
		実績					

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

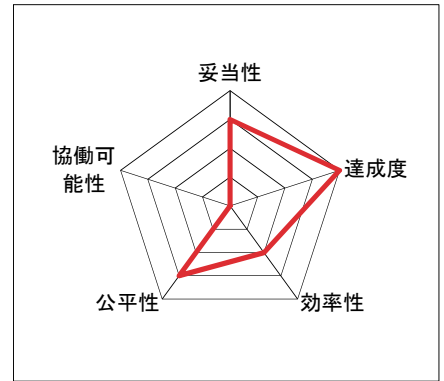
<p>（制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など）</p> <p>急激な高齢化に伴い利用者数も急増しており、支給事務の簡略化が求められる。</p>
---

## 5. 前年度からの改善状況

<p>&lt;参考：前年度の事務事業評価のコメント&gt;</p> <p>高齢者等の経済的負担を軽減するため、今後も事業を継続する。</p>
<p>（何をどのような状態に改善したのか）</p> <p>改善なし</p>

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	4
効率性	2
公平性	3
協働可能性	—



### 【アピールポイント】

<p>（活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど）</p> <p>目標値を大きく超えており、介護者のニーズに対応できており、経済的な負担軽減につながっている。</p>
--

### 【ウイークポイント】

<p>（活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定薬局の協力が必要である。</li> <li>・毎年度利用申請が必要であり、利用者の手間及び市の事務量が多い。</li> </ul>
---

### 改善・見直し

### 【コメント】

<p>（改善の方法、今後の具体的展開など）</p> <p>利用対象者の補助割合の減少・市の支出負担の増加が無い方法で、市指定薬局での購入補助ではなく業者委託とする等、利用者と市双方においてより効率的な方法を検討したい。</p>
---

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

					事業名	高齢者日常生活補助事業								
番号	③	事務事業名	家族介護慰労金支給事業		款	3	項	1	目	2	大事業	3	中事業	3
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成13年度			終了（予定）年度	—							

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	<p>（誰、何に対し、何をどのように実施しているのか）</p> <p>【対象者】要介護4又は5の高齢者を過去1年以上在宅で介護している家族介護者で、世帯構成員の主たる生計中心者が市民税非課税者であり、且つ、要介護認定を受けた被保険者が、介護期間において法第40条に規定する介護給付を1年間受給していない方</p> <p>【内容】年に1回100,000円の慰労金を支給する。</p>
意図	<p>（対象をどのような状態にしたいか）</p> <p>介護者の精神的かつ経済的負担を軽減する。</p>

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			100	100	100
		決算			0	0	

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業利用者数	人	目標	1	1	1	1	1
		実績	0	0	0	0	
		目標					
		実績					

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

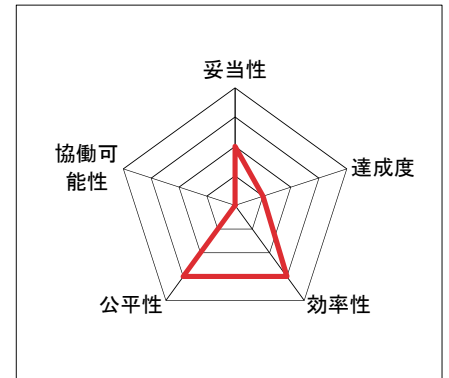
<p>（制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など）</p> <p>介護サービスの多様化、充実により、要介護4以上の方を在宅介護しながら介護サービスを利用しない方は稀で、事業実績がない状況が続いている。</p>
--

## 5. 前年度からの改善状況

<p>&lt;参考：前年度の事務事業評価のコメント&gt;</p> <p>近年、利用者数がない状態であるが、介護者の精神的かつ経済的負担を軽減するため、対象となり得る方への周知に努めつつ、今後も事業を継続する。</p>
<p>（何をどのような状態に改善したのか）</p> <p>利用者が分かりやすいよう要綱・ホームページ・福祉ガイドの記載の見直しを行った。</p>

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	2
達成度	1
効率性	3
公平性	3
協働可能性	—



### 【アピールポイント】

<p>（活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど）</p> <p>介護サービスを利用しないで介護を行う介護者の精神的、経済的な負担軽減につながる。</p>
--

### 【ウイークポイント】

<p>（活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど）</p> <p>平成22年以降支給実績がないため、事業のあり方の見直し、検討が必要。</p>
---

## 7. 今後の方向性

**改善・見直し**

### 【コメント】

<p>（改善の方法、今後の具体的展開など）</p> <p>事業の妥当性を再度見直し、他市町の状況を参考にしつつ、事業廃止も含めた検討が必要である。</p>
---

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

					事業名	高齢者日常生活補助事業								
番号	④	事務事業名	訪問理美容サービス事業		款	3	項	1	目	2	大事業	3	中事業	4
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成12年度			終了（予定）年度	—							

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	<b>【対象者】</b> ・要介護3以上の寝たきり状態又は認知症の方 ・身体障がい者手帳1級（内部疾患障がい者を除く。）の方 <b>【内容】</b> 1回につき3,000円を助成（年間6回以内）
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 自力で理美容に行くことができない高齢者及び重度身体障がい者（児）が衛生的な生活を送ることができるようにする。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			288	288	211
		決算			211	217	

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業利用者数	人	目標	23	24	26	28	30
		実績	19	22	26	21	
		目標					
		実績					

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

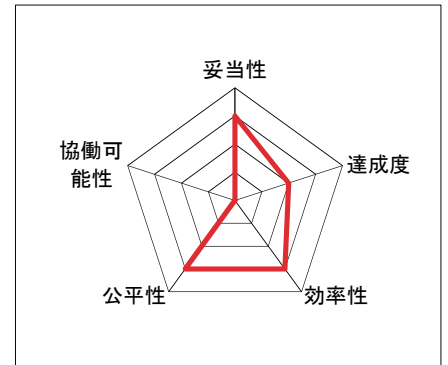
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
利用者数は、ほぼ横ばい傾向である。

## 5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
高齢者等の経済的負担を軽減するため、今後も事業を継続する。
(何をどのような状態に改善したのか)
改善なし

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	2
効率性	3
公平性	3
協働可能性	—



### 【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
毎年度、一定の利用はあり、利用者及び介護者の負担軽減につながっている。

### 【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
交付申請者数に対して、利用請求者の割合が少ないため、実際に利用しなかった、請求を忘れていた可能性が考えられる。

## 7. 今後の方向性

**改善・見直し**

### 【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
広報等で周知し、高齢者等の経済的負担を軽減するため、今後も事業を継続する。 交付決定者に対しても、請求忘れのないように周知などを検討する。

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

					事業名	高齢者日常生活補助事業								
番号	⑤	事務事業名	高齢者住宅改修事業		款	3	項	1	目	2	大事業	3	中事業	5
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成16年度			終了（予定）年度	—							

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	<p>【対象者】 次のいずれにも該当する方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・65歳以上の方</li> <li>・改修する住宅に住居登録されている方</li> <li>・市民税非課税世帯</li> </ul> <p>【内容】 手すりの取り付け、段差解消等の住宅改修費用を30万円を限度に全額補助する。</p>
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	高齢者が、安全に安心して快適な生活を送ることができる。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			2,100	3,000	3,000
		決算			2,731	4,223	

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
補助金支給件数	件	目標	30	6	7	8	10
		実績	7	5	10	15	
		目標					
		実績					

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

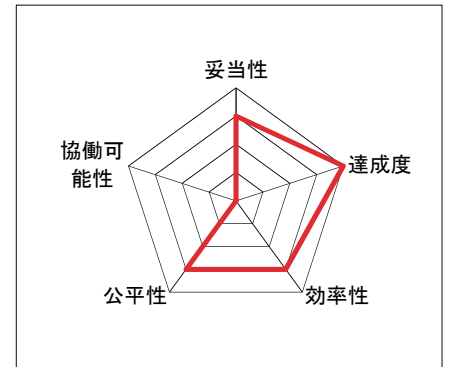
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
急速な高齢化、核家族化によって、バリアフリー化などの安全な住宅への需要が高まっている。

## 5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
高齢者の経済的負担を軽減するため、今後も事業を継続する。
(何をどのような状態に改善したのか)
平成29年度から、利用実績の極めて少ない「日常生活用具給付事業」の対象である電磁調理器への変更も当該事業の対象とすることで、利用者の申請しやすい制度とした。

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	4
効率性	3
公平性	3
協働可能性	—



### 【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
近年は、当初予算額を大幅に上回る交付申請があり、高齢化による住宅改修の必要性が高まっている。

### 【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
1件当たりの補助額が大きく、申請増加に伴う財政負担が大きい。

## 7. 今後の方向性

拡充

### 【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
防災意識の向上に伴い申請件数も増加傾向にあり、高齢者の経済的負担を軽減するため、今後も継続しつつ、交付件数の拡大に向けた財源確保、要件の見直し等を検討する。